7　警察犬

Ｑ３８　警察犬の仕事は何ですか。

Ａ　犬は人間と比べて数千倍もの臭いを感じ取る能力（嗅覚といいます。）を持っています。警察ではこの能力を使い、警察犬として育て、現場に残されている臭いから犯人を捜し出す仕事など、捜査に役立てています。

主な仕事は次のとおりです。

○　足跡追及活動（足跡の臭いから追いかける）

人の残した臭いから、犯人や犯人の残していった遺留品、行方不明の人を見つけるものです。

○　臭気選別活動（臭いで物の区別をする）

犯罪現場に残った犯人の物を保管しておき、容疑者が分かったときなどに、その物と容疑者の臭いを嗅ぎわけ、犯人を調べる方法です。

○　捜索活動

一定の地域内から人や物を発見させるもので、迷子、行方不明者、遺留品などを探します。

Ｑ３９　警察犬は、何頭いるのですか。

Ａ　直轄警察犬（全国の警察が直接飼育している警察犬）が、

千葉県　　６頭（令和７年１月１日現在）

全　国　　１５３頭（令和７年１月１日現在）

嘱託警察犬（民間の訓練所で飼育している犬を年１回審査して、優秀な犬に警察犬として活動してもらっている。）が、

千葉県　　３９頭（令和７年１月１日現在）

全　国　　１，０５７頭（令和７年１月１日現在）

Ｑ４０　どんな種類の犬が、警察犬になれますか。

Ａ　どんな犬でも警察犬になれます。

ですが、日本で飼われている犬種は約２００種といわれ、このうち警察犬に適しているのは、数種に限られています。

公益社団法人日本警察犬協会では、

シェパード

ドーベルマン

コリー

エアデールテリア

ラブラドール・リトリーバー

ボクサー

ゴールデン・リトリーバー

の７犬種を警察犬に適している犬種として指定しています。

Ｑ４１　警察犬の訓練は、どのようなことをするのですか。

Ａ　生後８か月から訓練を開始します。

○　基本訓練（服従訓練）では、

停座（座る）

伏臥（伏せる）

立止（立って待つ）

脚側行進（訓練士の左側について動き、止まる）

物品持来（物をくわえて持ってくる）

などの基本的な動作を訓練します。

○　応用訓練

基本訓練をマスターした後、応用訓練を開始します。

Ｑ４２　警察犬の制度は、いつごろできたのですか。

Ａ　○　外国での警察犬制度の始まり

１８９６年（明治２９年）

ドイツのヒルデスハイム市警察で、警察官と一緒にパトロールする犬として警察犬が採用されました。

１８９９年（明治３２年）

ベルギーのジェント市で、警察官の補助として警察犬が採用されました。

１９０８年（明治４１年）

イギリスのケント州で、警察官の補助としてエアデールテリア犬種が警察犬として採用されました。

その後、警察活動で良い結果を多く得られたため、アメリカ、イタリア、ロシアなどでも警察犬を採用し、現在では数多くの国が捜査などに活用しています。

○　日本の警察犬制度の始まり

１９１２年（大正元年）

警視庁がコリー犬種、ラブラドール・リトリーバー犬種の２頭を警察犬として採用しました。当時は犯罪捜査ではなく、防犯広報活動が目的でした。

１９４０年（昭和１５年）

警視庁で、警察犬舎を設け、警察犬６頭を飼育しました（戦争のため一時廃止）。

１９５２年（昭和２７年）

戦後再び警察犬の採用が検討され、警視庁で民間の訓練士に１２頭の犬を警察犬として嘱託しました（嘱託警察犬制度の始まり）。

１９５６年（昭和３１年）

警視庁で、本格的な直轄警察犬制度が発足しました（直轄警察犬制度の始まり）。